

農家せんべい

焼いてます



里山農場の農家せんべい（左）と、受託で焼いたせんべい（右）

里山農場のせんべいは帯紙を巻き、受託加工のせんべいにはラベルシールを貼付する。自然食品店や農産物直売所などを中心に6枚入り1袋330円程度で販売。安全で安心なお菓子を求めている若い親世代とその両親などが主なターゲット

山崎勝久



筆者。シシの子が捕れました

「加工は儲かるかな」は、ちよっと甘かった

埼玉県や栃木県で三年間農業の研修や実践を積んだあと、二〇〇一年に岡山市（旧御津町）で新規就農しました。当初から、米、麦、大豆、多品種の野菜、加工品を生産し、直接個人のお客さんに宅配することと、地元の自然食品店で販売することで農場を運営してきました。自給自足を目指していたわけではありませんが、なんとなく自分で何でも作りたいと思う気持ち

農家せんべい

強いいため、毎年いろんなものに手を出していきました。漬物や味噌から米発酵飲料（？）まで、いろいろ楽しんでやってみましたが、いざ加工品をお客様に販売すると、別次元の問題であることがよくよくわかってきたのです。

原料の品質も当然重要ですが、農産加工では、機械の品質や熟練した技術が、より品質につながることを実感しました。ただでさえ何十万円もかけて購入した機械が、年間数日稼働するだけで普段は納屋でいくつも眠っています。いいものを効率よく作ろうと思えば、さらに高い機械を購入しなければなりません。共同の農産加工施設を利用させてもらおうと思っても、自分が使用したい時は地域のみなさんも使用したい時です。

加工でわが家の自給率は確かに上がったのですが、経営的には大きな疑問。また販売に際してはパッケージや

デザイン、コピー、ポップなどが必要で、「農産加工は儲かるかな？」は、ちよっと甘い考えでした。

委託加工で多種類、農場ブランドができた

「やはり、加工は本職に任せよう」と思い、原材料は自分が提供し、小ロットでも加工していただけるこだわりの業者さんへの委託加工の道に進みました。

加工賃が高いかと最初は思っていました。自分が作る手間、品質、機械の償却を考えると委託したほうがいいと思えるものも多数あり、その製品で農場のブランド作りと販売の方法を考える余裕ができました。せんべい、乾麺、ニンジンジュースなど数種類の長期保存可能な加工品が揃い、ギフトセットやお中元やお歳暮、出産の内祝などによく利用していただきました。また直売所でも、数種類の加工品が常時

そろえられれば、自分の農場のコーナーを作ってもらうことも可能となります。自分の農場ブランド作りにはやはり加工品は欠かせません。

本気で加工に乗り出す機械を入れて受託もする

ところが小ロットの農産加工をしてくれる業者さんは数少ないものです。せんべいの加工をお願いしていた業者さんが高齢となり、持続的な加工は難しい状況もみえてきました。やはり自分で加工するしかなさそうですが、前述のように米や野菜の片手間の加工は



里山農場の加工品の詰め合わせギフトセット。お米・せんべい・乾麺・ジュースが入っています

